

Sustainability Report 2025

Purpose パーパス

アルミの技術で夢のアルミライを[®]

これが私たちのパーパスです

私たちはパーパスのもと、お客様に寄り添い

夢のある未来を創造していきます

私たちは、アルミという素材に真摯に向きあい

一心にその可能性を追求してきました

今後は各社に蓄積されている開発力、技術力、知見を総動員し

グループ一丸となってお客様と夢のある未来を切り拓いていきます

加えて、高度なリサイクル技術を更に深化させ

持続可能な社会の発展に貢献します

アルミの魅力を知っている私たちは

アルミ製品事業を専業とすることで培われた

卓越した技術力と豊富な知見を糾合し

全てのお客様へ夢のある未来を届けます

『アルテミラ』



ロゴのデザインコンセプトは、英文社名「ALTEMIRA」と「Aluminum」の頭文字である「A」、国内におけるリサイクルマークをモチーフに三角形のシンボルとしました。ALTEMIRAの大切なお客様およびALTEMIRAが守るべき社会を、私たちALTEMIRAグループが下支えしている姿を表現しています。

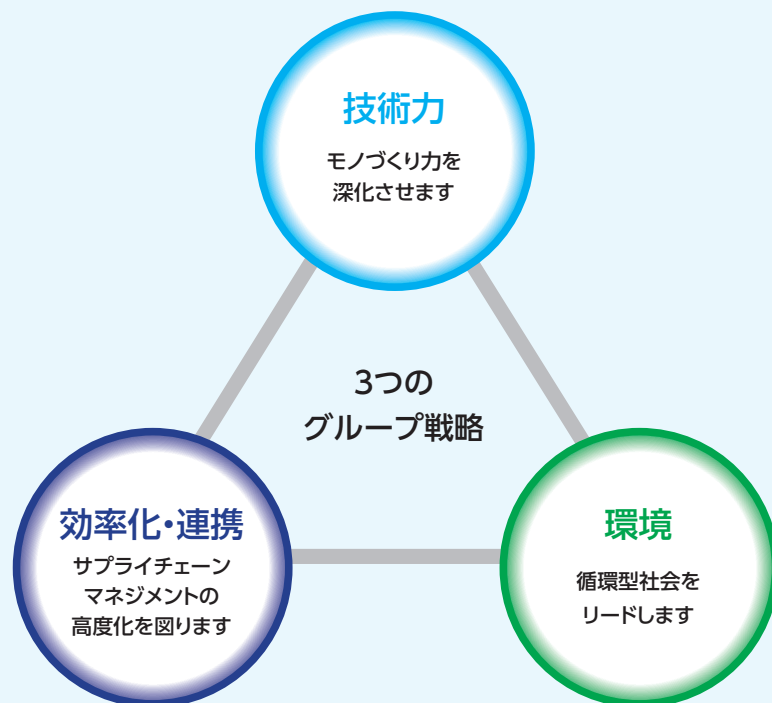
ベースカラーは、お客様に対して「One ALTEMIRA」で誠実に取り組む姿勢を表現したブルーとしています。加えて、ALTEMIRAの強みであるリサイクル技術で「グリーン社会の実現に貢献する」という想いからグリーンを組み合わせました。そして、ALTEMIRAが私たち自身、お客様、社会と共に明るい未来を創造していく姿勢を表現しています。

Group Strategy グループ戦略

「世の中になくてはならない存在」への成長

各社の強みを融合し夢のある未来を創造していくベストプラクティスの共有・深化を
水平・垂直で進めることによりシナジーを創造していくために3つの戦略を策定しました

- グループ共通の先駆的な精神を活かし、優れたモノづくりによりお客様に新たな価値を提供します
- 水平・垂直統合により各社に蓄積された知見や経験を結集させ、お客様にトータルソリューションを提供します



- グループ全体のリソースを活用することにより、生産／供給体制の最適化による事業基盤、BCM[※]の強化を実現します
- ベストプラクティスの共有によるサプライチェーン全体を通じた品質、安全、環境マネジメント力の向上を図ります

- 高いリサイクル技術を誇り、圧延・製缶垂直統合を実現したアルテミラグループだからこそ可能な、サステナブルソリューションを追求します
- 消費者に届く最終製品まで含めたバリューチェーン全体での、環境負荷の低減に貢献します

Contents

パーパス	2
トップメッセージ	4
UBC一貫処理システム	6
環境に配慮した製品	7
環境保全の取り組み	9
コーポレート・ガバナンス	13
品質保証の取り組み	15
安全衛生の取り組み	18
社会貢献活動	20
会社概要	23
組織図	25
沿革	26

編集方針

- 報告対象分野と報告対象範囲
日本事業のサステナビリティ活動が対象
- 報告対象期間
2024年度(2024年1月～2024年12月)。ただし、一部、対象期間外の活動・実績にも言及しています。
- 発行日
2025年9月
- お問い合わせ先
アルテミラ・ホールディングス株式会社(グループ戦略統括部)

※Business Continuity Management(事業継続マネジメント)

Top Message

トップメッセージ

卓越したアルミの技術と知見で
サステナブルな循環型社会を創出し
地球環境の未来に貢献します



代表取締役社長
中塚 晃章

アルミを軸とした循環型社会を構築する One ALTEMIRA 体制の強化へ

2022年7月、アルミ缶製造、アルミの圧延・箔・押出などアルミ製品事業を専業とする5社を統合した総合アルミニウムグループが誕生し、アルミ業界で唯一無二の垂直統合型企業体としてスタートしました。2025年6月にはグループを再編し、アルテミラ・ホールディングス(株)が経営機能を統括する新体制に移行しました。この再編により、グループ経営とガバナンスを強化した、新たなOne ALTEMIRA体制が整いました。

グループを挙げて推進するのは、アルミを軸とした循環型社会の構築です。国内におけるアルミ缶のリサイクル率は99.8%に達し、「CAN to CAN」のリサイクル率は75.7%と^{*1}、アルミ缶はいち早くサーキュラーエコノミー(循環型経済)を実現しています。その原点は、私たちが日本で初めてアルミ缶を製造した1971年に遡ります。1975年には業界初でアルミ缶リサイクルを開始し、2001年にはUBC(使用済み飲料用アルミ缶)回収から再生地金の製造、製缶まで行う「UBC一貫処理システム」を構築しました。現在でもアルミ缶水平リサイクル「CAN to CAN」の推進役として、アルミを軸とした循環型社会の構築をリードしつづけています。

グループシナジーを発揮して アルミの価値を世の中に訴求する

アルテミラグループではカーボンニュートラル実現に向けて、Scope1・2におけるGHG(温室効果ガス)排出量の40%削減^{*2}を目指すという2030年目標を設定しました。その達成に向けて、均質化炉の更新や燃料転換などでの「設備効率化」、オンサイトPPAなどの「再生可能エネルギー活用」、グループシナジーを活用した「軽量化」「リサイクル材の活用促進」を積極的

に推進しています。

グループシナジーを発揮した取り組みも進化しています。グループ企業のアルテミラ(株)、MAアルミニウム(株)、アルテミラ製缶(株)、アルテミラ・テクノソリューションズ(株)が連携する「UBC一貫処理システム」により溶解工程や輸送負荷を減らすことで、一般の再生処理と比較してCO₂排出量を30%以上削減しています。さらなる生産力増強を図るため、MAアルミニウム(株)のUBC処理能力を高める設備投資を行っており、来期には稼働する予定です。

電解コンデンサ用高純度アルミ箔で世界トップクラスのシェアを誇る堺アルミ(株)では、高純度アルミの精製過程で発生する残渣を活用した新たなアルミ製品「LoopAL[®]」の販売をスタートしました。リサイクル材と配合することで、アルミ新塊から製造した場合のCFP(カーボンフットプリント)と比べ、約6割のCO₂削減を実現します。販売開始以来、産業機器メーカーなどからの引き合いが高く、ホールディングスと連携したブランディングや広報活動を進めています。

One ALTEMIRA 体制を進化させる 経営・ガバナンス体制の改革

新たなOne ALTEMIRA体制がスタートした本年、経営・ガバナンス強化の改革にも着手しました。経営管理部門の再編として、従業員の働きやすさ、業務効率化を実現する「情報システム・DX部門」を立ち上げました。ペーパーレス化に始まり、RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)の活用、グループ各社の業務システムの統一、製造機械の予知保全システムの導入など段階的にDXを進めています。

また、アルテミラの知名度向上とインナーブランディング、PETボトルをアルミ缶に置き換える「PET to CAN」のアピールを担う「広報部」も発足しました。私たちが「PET to CAN」を推

進するのは、アルミ専門メーカーとしての利益のみならず、消費者や社会にもたらすメリットが圧倒的に大きいからです。私たちはB to B企業ですが、アルミを知り尽くした専門企業として、消費者の方々にも広くアルミの良さを伝えていく使命があり、多角的な情報発信を強化していきます。

アルテミラグループを支える 人的資本の充実に向けて

グループ各社の従業員が私たちの事業に誇りをもって健やかに働ける環境を創出することは、ホールディングスが果たすべき重要な役割です。そのためにグループで統一した人事諸制度の策定を進めており、第1弾として4月から新たな人事制度に移行しました。まずは管理職から始め、従業員に展開していく予定です。福利厚生や勤務・給与体系も業界水準と照らしながら刷新していきます。

こうした人事制度の刷新においては、昨年度から始めた従業員サーベイの結果を広く取り入れています。初めてのサーベイということでグループ各社の従業員からさまざま意見が寄せられましたが、とくに多かったのがグループ各社の人事諸制度の違いを指摘する声でした。ホールディングスの人事・総務部門が中心となって、来年1月をめどにさらなる大幅改定を行い、多くの従業員にとってモチベーション向上につながる人事制度に変えていく予定です。また、健康経営も引き続き、従業員に向けて健康増進の研修や福利厚生の充実を図っていきます。

リサイクルの優等生「アルミの優位性」を 社会に発信し、持続可能な未来を創る

アルミの魅力は、軽くて丈夫、加工しやすく、熱伝導率が高いなどじつに多岐にわたります。そして最大のメリットは、何度でも

リサイクルできる優れた環境素材であることです。日本国内のアルミ缶年間需要約209億缶^{※1}に対し、PETボトルは約267億本^{※4}です。PETボトルをアルミ缶に置き換える「PET to CAN」ムーブメントを私たちが盛り上げていくことで、大きな環境効果が期待できます。我々の活動は当面日本国内に焦点を当てていますが、サステナビリティにおけるアルテミラグループの活動は我々が拠点を置く海外でも展開しています。環境課題に対しては、グローバルレベルでの貢献を今後とも目指していきます。

アルミの活用については、アルミを扱う業界、あるいはサプライチェーンでつながる異業種と広く連携していきたいと考えています。私たちが培ってきたアルミの技術と知見を社会に還元し、地球環境の未来に貢献していきます。

※1,3 2024年度国内アルミ缶需要量(アルミ缶リサイクル協会)

※2 対象：グループ国内会社、基準年：2013年

※4 PETボトルリサイクル年次報告書2024(PETボトルリサイクル推進協議会)



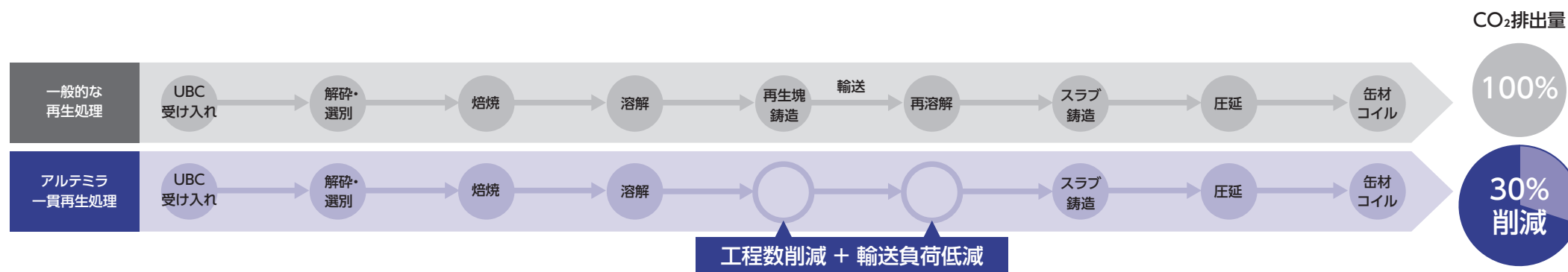
UBC一貫処理システム

水平リサイクル『CAN to CAN』

アルミニウムは繰り返し再利用しても性質が変わらないため、資源として非常に優れたリサイクル性を有しています。使用済み飲料用アルミ缶(Used Beverage Can:UBC)は何度でも新たなアルミ缶へと生まれ変わることができ、この缶から缶へ再生する仕組みを「CAN to CAN」と呼んでいます。

アルテミラグループは、1970年代に業界に先駆けてアルミ缶リサイクルの取り組みを開始し、以来、継続的にその推進に力を注いでいます。2001年にはUBCの回収から、溶解～ casting～圧延、製缶工程に至るまで、一貫したリサイクルシステムを構築。2022年には循環型モデルの特性を活用し、新たな形の企業グループを創出しました。

アルテミラグループ内での一貫処理システムによって、工程数の削減および輸送負荷の低減につながり、一般的な再生処理と比較してCO₂排出量を約30%削減することに成功しています。



環境に配慮した製品

軽量化の取り組み

●缶胴

350mlアルミ缶については、ビール用やノンアルコール飲料用やRTD用の缶胴の軽量化の開発を進めています。軽量化するためには、缶の厚みを薄くする必要がありますが、強度の低下が懸念されます。特に軽量化による強度低下の影響を受ける缶底部の形状の変更に加えて、缶底部内側に溝をつけるボトムリフォームと言う加工技術を使用し、缶強度の低下を防ぐことによって、軽量化を実現しています。

炭酸飲料用310mlアルミボトルにおいても、軽量化の開発を進めています。炭酸飲料用は炭酸ガスが含まれているため、コーヒー飲料に比べて高い耐圧強度が必要になります。缶底部の耐圧強度を高めるために、ボトムリフォームを使用して、耐圧強度を確保しています。

●タブ

ビール用缶蓋のタブにおいて軽量化に取り組みました。タブは飲み口を開けるために十分な強度を保持する必要がありますため、折り返し部の断面形状の改良を行い、強度と軽量化の両立を図りました。この取り組みにより、タブ単体では14%、缶蓋全体で1.6%の軽量化を実現し、2025年3月から供給を開始しました。

アルテミラグループではリサイクル材の活用や製品の軽量化などへの取り組みを推進し、Scope3^{※1}におけるGHG^{※2}排出量の最小化を目指します。

※1 Scope3:事業者の活動に関する原料調達、物流、廃棄などに伴う排出 ※2 GHG:Green House Gas(温室効果ガス)

リサイクル材の活用

アルテミラグループでは、100%リサイクル材^{*}を用いたアルミ缶胴、アルミボトルを製造しています。なかでも、成形が複雑なアルミボトルへの適用に成功したことで、従来の製品に比べ、CO₂排出量を約25%削減できるようになりました。

さらに、密封性など高い性能が求められるキャップについても、MAアルミニウム(株)の製造工程最適化による材料開発と、アルテミラ(株)の成形技術の改良により、2024年5月から100%リサイクル材を用いたキャップの供給を開始しています。

この結果、ボディとキャップともに100%リサイクル材で同一合金(ユニアロイ)化したオールリサイクルアルミボトルを開発。国内飲料メーカーに採用され、実用化が進んでいます。キャップにもリサイクル材を使用したことで、従来の製品に比べ1缶あたりのCO₂排出量を約37%削減しています。

※使用済み飲料用アルミ缶、コイルおよびアルミ缶製造時に発生するスクラップで構成される材料(成分調整分を除く)

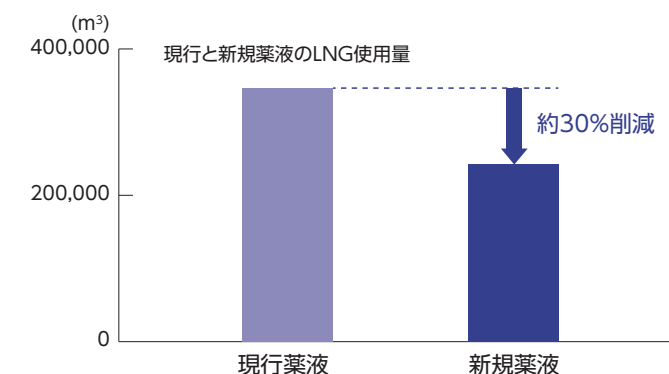


アルミボトル、
アルミボトル用キャップ

製造プロセスの改善による 熱エネルギーの削減

アルミ缶はアルミの板から大きな加工を加えて成形するため潤滑油を使用しています。成形したアルミ缶は印刷工程の前に高温の薬液で洗浄を行いますが、低温でも洗浄できる新規薬液の開発を行い、洗浄槽の低温化を実現しました。昇温にかかるエネルギーコストを抑え、LNG使用量を1工場当たり年間最大約30%の削減を実現させました。

新規薬液納入時における熱エネルギー削減量試算



※立上げ時の浴昇温熱エネルギーコストは除外

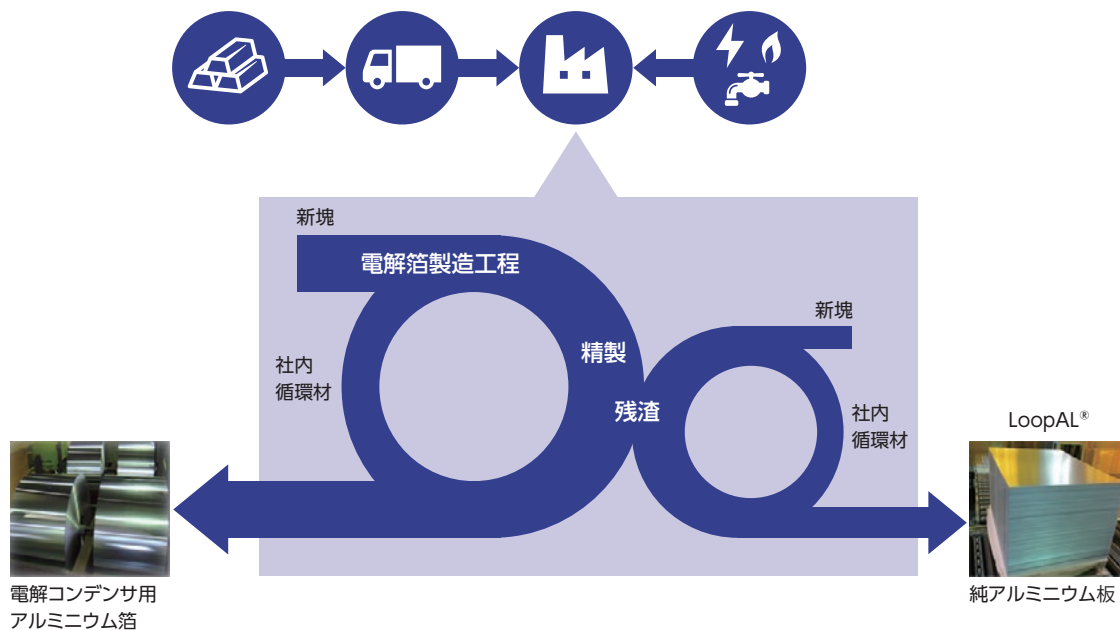
CFPゼロ原料を活用した低炭素アルミ製品「LoopAL®」

堺アルミ(株)は、アルミニウム電解コンデンサ用高純度アルミニウム箔製品において、世界トップクラスの市場シェアを有しています。電解コンデンサ用アルミニウム箔の製造時、原料となる高純度アルミニウム(純度99.9%)を精製し更に高純度化(純度99.99%)しますが、その工程において一定比率の精製残渣が

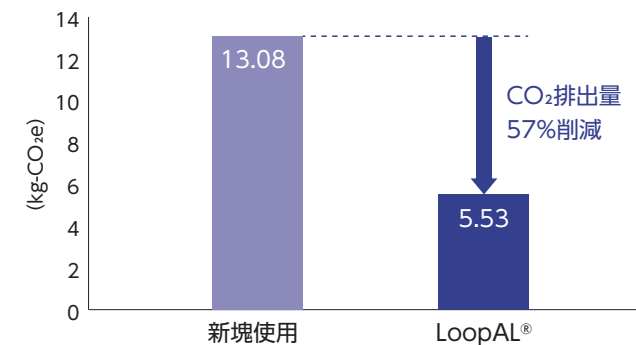
発生します。この高純度アルミニウムから発生する残渣の主成分は99%アルミニウムであり、残渣であるためそのカーボンフットプリント(CFP*)はゼロとなります。

※カーボンフットプリント:製品のライフサイクルを通じて排出される温室効果ガスの総量を、二酸化炭素(CO₂)排出量として換算した指標のこと

堺アルミ(株)はこの残渣を原料としたアルミニウム板製品をLoopAL®と名づけ、まずは純アルミ系(A1100P)から販売を開始しています。新塊使用時と比較した場合のCFPと比較した場合、純アルミ系でありながらLoopAL®のCO₂排出量は約6割減となります。また、純アルミ系でありながら再生可能エネルギーを用いて製錬したグリーンアルミ新塊を使用することなく、LoopAL®を使用した装置や建物のCO₂排出量低減を実現します。



従来の板製品とLoopAL®のCO₂排出量の比較



品質と環境への配慮を兼ね備えた製品LoopAL®を提案することでよりよい社会の発展に貢献してまいります。



環境保全の取り組み

モノづくりには、多くの資源・エネルギーを消費し、さまざまな副産物や廃棄物を排出するという側面があります。アルテミラグループは、限りある資源を浪費しないこと（INPUTの削減・有効活用）と、地球環境の保全に貢献すること（OUTPUTの削減・管理）を念頭に置き、コンプライアンスを遵守し、アルミ缶およびアルミ圧延・箔・押出の専門メーカーとしての特徴を活かしたサステナブルな環境保全に取り組んでいます。

環境マネジメント活動による継続的改善

アルテミラグループ環境方針

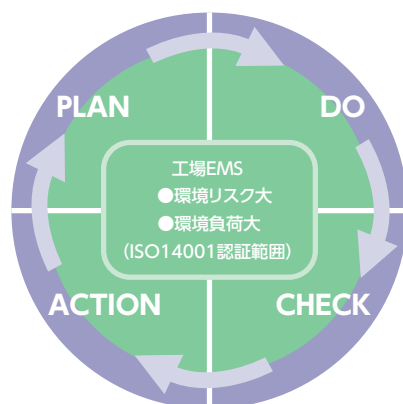
環境の保全に努め、豊かな自然との調和・共存を図る

- 法の遵守
環境関連諸法令の遵守
- 環境汚染予防
環境事故の未然防止、環境負荷の低減
- カーボンニュートラル
GHG排出量実質ゼロの実現
- 資源の有効活用
サプライチェーンを通じたアルミリサイクルへの対応、付加価値の提供
- 継続的改善
環境マネジメントシステム活用による環境パフォーマンスの向上

環境管理体制

グループ各社それぞれにおいて、EMS（環境マネジメントシステム）を構築、ISO14001を認証取得しており、日々の活動と継続的な改善を推進しています。

本社機構含めた全社的EMS



環境関連会議体

グループ各社とも環境関連会議体を運営しており、好事例の水平展開や顕在化リスクの情報共有などによる、それぞれの取り組みの効率化を図っています。

省エネ・脱炭素推進活動

[Scope1、2^{*1}関係]

省エネ活動、高効率機器の導入、再生可能エネルギーの活用検討など、あらゆる取り組みを事業場全体で促進しています。

[Scope3^{*2}関係]

輸送プロセスの効率化、アルミ地金のリサイクル材活用など、LCA（ライフサイクルアセスメント）の観点でサプライチェーン全体での脱炭素を推進しています。

※1 Scope1：事業者自らの燃料の燃焼や工業プロセスに伴う排出（直接排出）

Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う排出（間接排出）

※2 Scope3：事業者の活動に関する原料調達、物流、廃棄などに伴う排出

水質管理活動

アルミ加工時の潤滑油および表面洗浄水を排水処理工程にて清浄な水に処理したうえで、河川などに放流します。この処理工程については、「油や不純物の凝集分離」、「有機物の生物処理」などに、順次、新しい技術を取り入れ、清浄水への処理の更なる安定化を図っています。

廃棄物削減活動

産業廃棄物削減については、国内製缶は製品数量当たり、板・箔・押出は製品重量当たりの排出原単位削減とともに、廃棄物の有価物化率向上、最終埋立処分のゼロ化（ゼロエミッション）など、循環型社会形成に寄与する再資源化率の向上に取り組んでいます。

資源の有効活用、環境負荷低減、そして脱炭素へ。

対象：国内製缶

INPUT

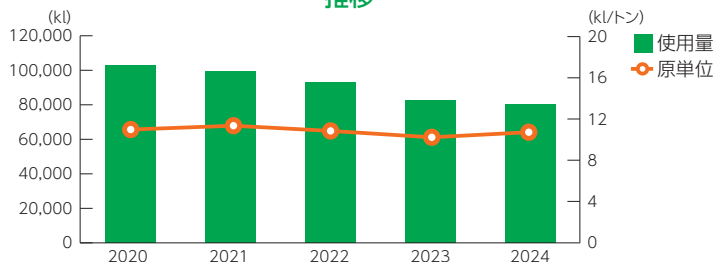
2024年

総エネルギー使用量(原油換算)

80,112 kL

製造ラインを稼働する電力、乾燥工程に使用するガスなど

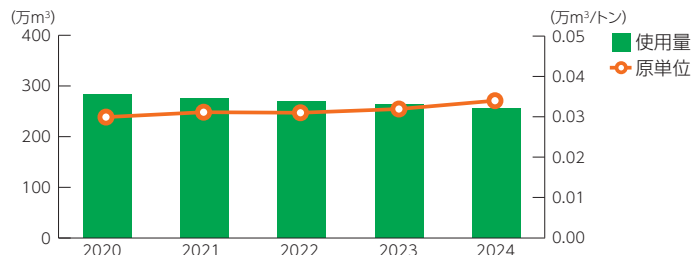
推移



水使用量

256.0 万m³

加工油を洗浄する水など



OUTPUT

2024年

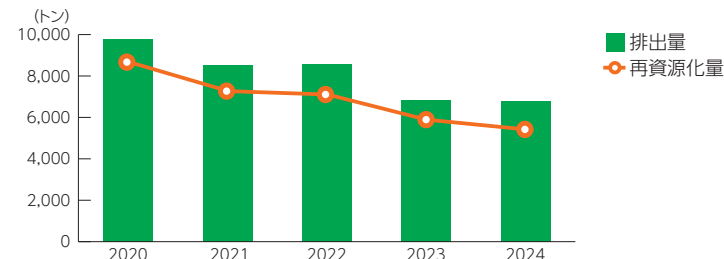
廃棄物発生量

6,771 トン

排水処理汚泥、加工油など

(うち、再資源化量5,437 トン)

推移

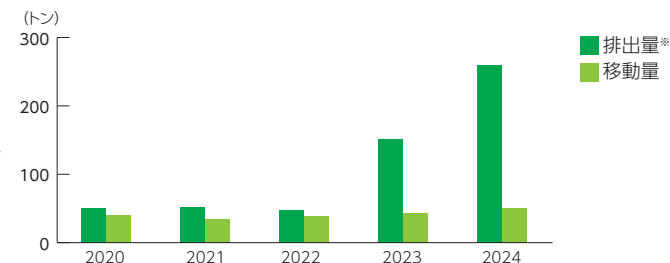


指定化学物質の排出量と移動量 (PRTR制度対象物質)

ホルムアルデヒド、
ポリアルキルエーテルなど

排出量：
大気・水域へ 259 トン

移動量：
廃棄物へ 51 トン

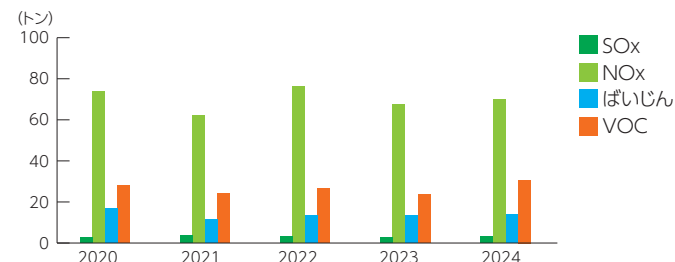


※2023年4月の法改正に伴いPRTR規制対象物質の排出量が増加

大気への排出量 (大気汚染防止法対象物質)

主にインキ、塗料の乾燥工程から発生する物質の総量
(VOCのみ規制値未満へ燃焼処理した後の値)

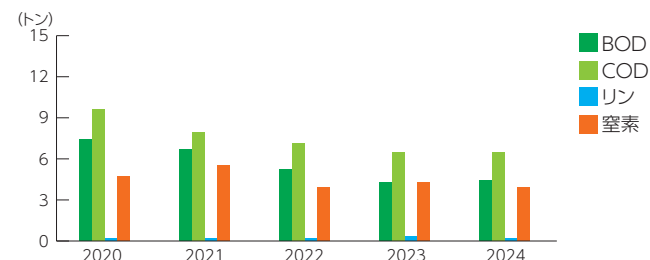
SOx 3.4 トン
NOx 70.0 トン
ばいじん 14.0 トン
VOC 30.7 トン



水域への排出量 (水質汚濁防止法対象物質)

排水処理工程にて、
規制値以下に処理された物質の総量

BOD 4.4 トン
COD 6.5 トン
リン 0.2 トン
窒素 3.9 トン



資源の有効活用、環境負荷低減、そして脱炭素へ。

対象：板・箔・押出

INPUT

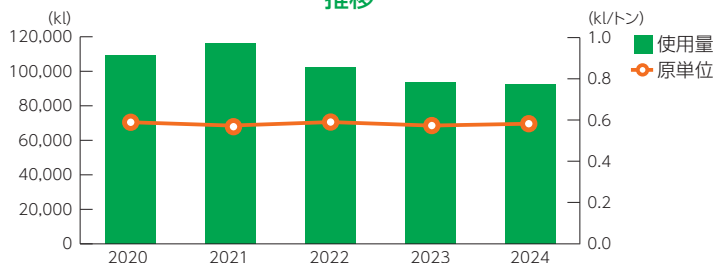
2024年

総エネルギー使用量(原油換算)

92,437 kL

各工程で使用する電力、溶解工程に使用するガスなど

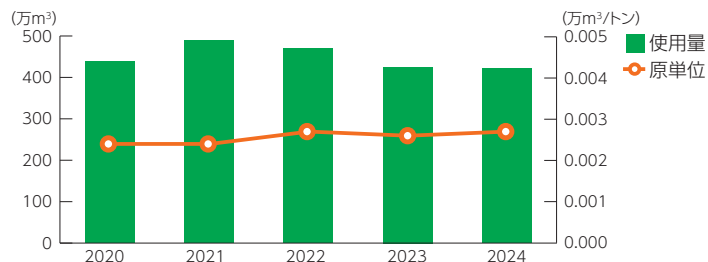
推移



水使用量

421 万m³

クーリングタワー循環、圧延加工後の洗浄など



OUTPUT

2024年

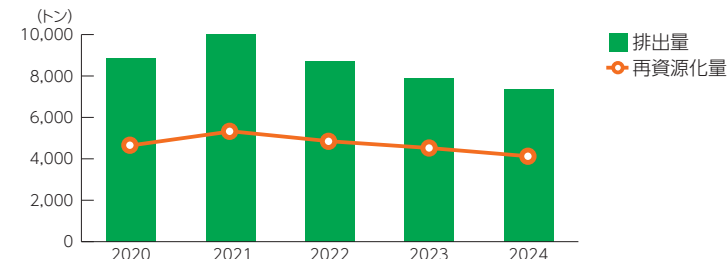
廃棄物発生量

7,343 トン

汚泥、廃油、珪藻土、木くずなど

(うち、再資源化量4,134 トン)

推移



指定化学物質の排出量と移動量

(PRTR制度対象物質)
キシレン、ノルマル-ドデシルアルコール、1-ブロモプロパンなど

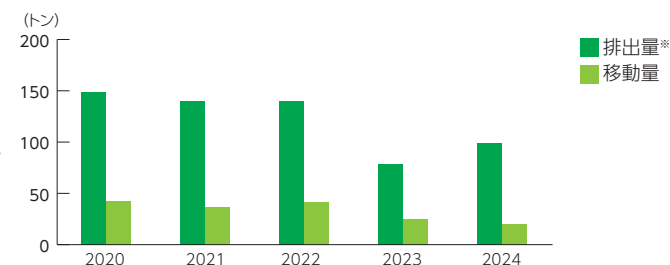
排出量：
大気・水域へ

99 トン

移動量：
廃棄物へ

20 トン

※2023年に法令改正がありました



大気への排出量

(大気汚染防止法対象物質)

主に溶解炉、加熱炉、均熱炉などから発生する物質の総量

SOx

1.1 トン

NOx

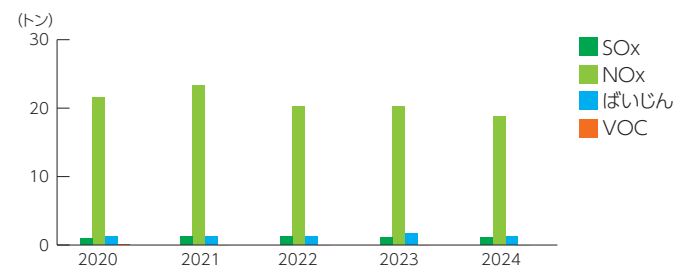
18.8 トン

ばいじん

1.3 トン

VOC

0.0 トン



水域への排出量

(水質汚濁防止法対象物質)

排水処理施設にて、規制値以下に処理された物質の総量

BOD

4.2 トン

COD

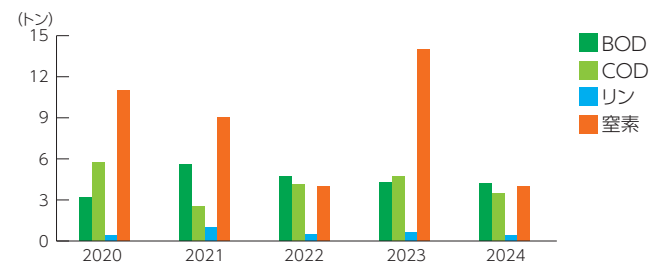
3.5 トン

リン

0.4 トン

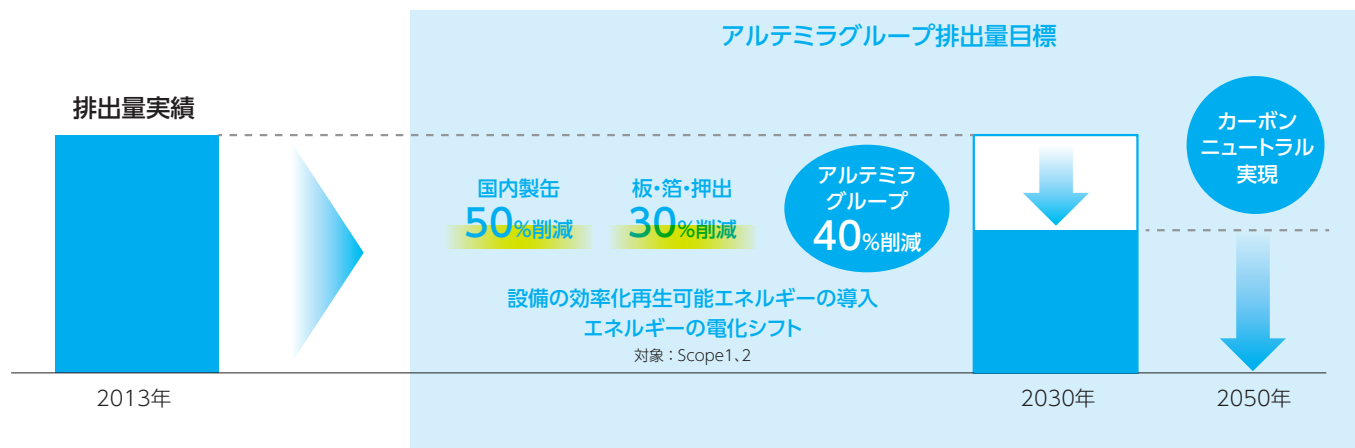
窒素

4.0 トン



カーボンニュートラル宣言

カーボンニュートラル実現に向けて



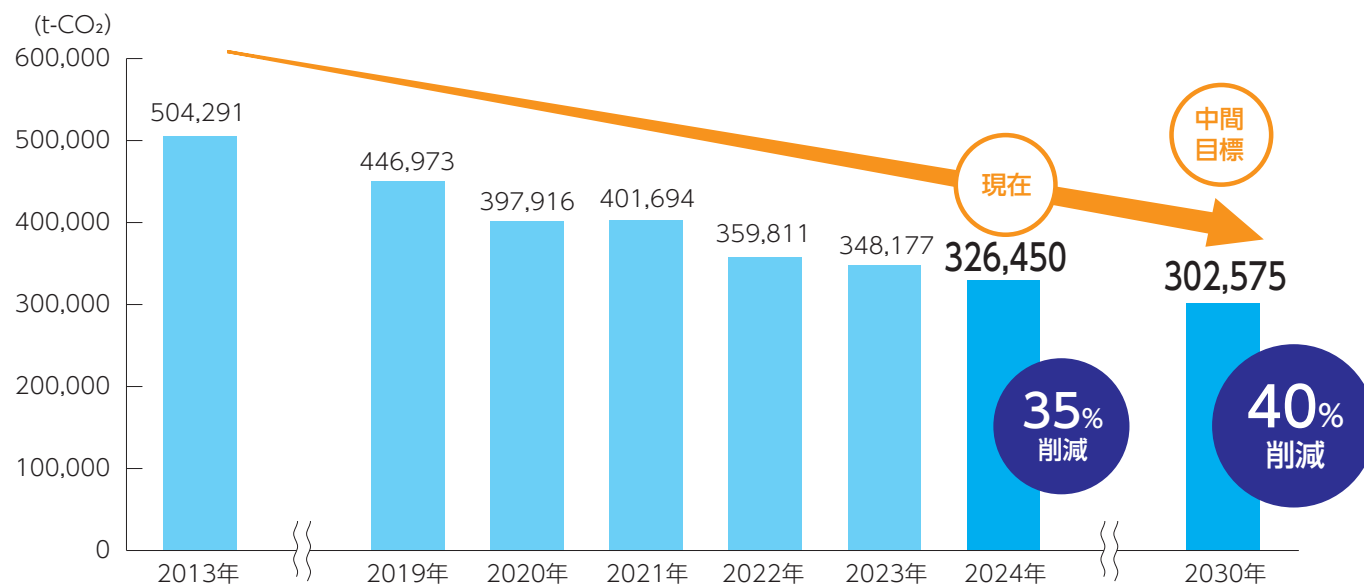
アルテミラグループは、各事業場で消費するエネルギー起因 (Scope1, 2) のGHGを、2013年比で、「2030年40%削減」の目標を立てています (国内製缶は50%、板・箔・押出は30%)。また、2050年にはカーボンニュートラル実現を目指します。

現在、設備の効率化や廃熱利用などにより、35%削減まで進捗しており、今後は再生可能エネルギーの導入や、ガス設備の電化を含む技術革新も視野に入れ、長期的目標の達成に向けて、取り組みを推進します。

Scope3におけるLCA手法の活用

製品の軽量化やリサイクル材使用率向上など、Scope3におけるGHG排出量削減の取り組みについては、グループ一体となってLCAの手法を活かし、その効果を数値化、見える化を行うことで、施策の効率的な推進に努めています。

アルテミラグループのCO₂排出量合計推移



コーポレート・ガバナンス

アルテミラグループではコーポレート・ガバナンス基本方針を定め、経営の健全性、実効性および透明性を確保し、企業価値の持続的な向上により社会から信頼・評価される「社会貢献企業」を実現するために、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

1) 意思決定、監督および業務執行の体制

アルテミラグループにおける経営の意思決定および監督については、独立社外取締役3名を含む取締役9名(内、3名が監査等委員)で構成される取締役会において行っています。取締役会に付議される案件は、代表取締役社長、取締役および執行役員等で構成される経営会議において十分な事前審議を行い、意思決定の適正化を図っています。

業務執行については、取締役の合理的な業務分掌を定めた上で、執行役員に取締役の業務執行を補助させています。また、社内規程等により、各機関、各部署の業務分掌を定め、機動的かつ適正に業務執行を行っています。

2) 監査体制

アルテミラグループにおいては、監査等委員会による業務・会計監査、会計監査人による会計監査および内部監査室による内部監査の三様の監査を行っています。

監査等委員会は、取締役の職務執行を監査し、その適正確保に努めています。

内部監査室は、主に業務内容全般の適法性、合理性、効率性などを内部監査し、被監査部署に対しては改善指導、フォローアップを行っています。

3) 内部統制

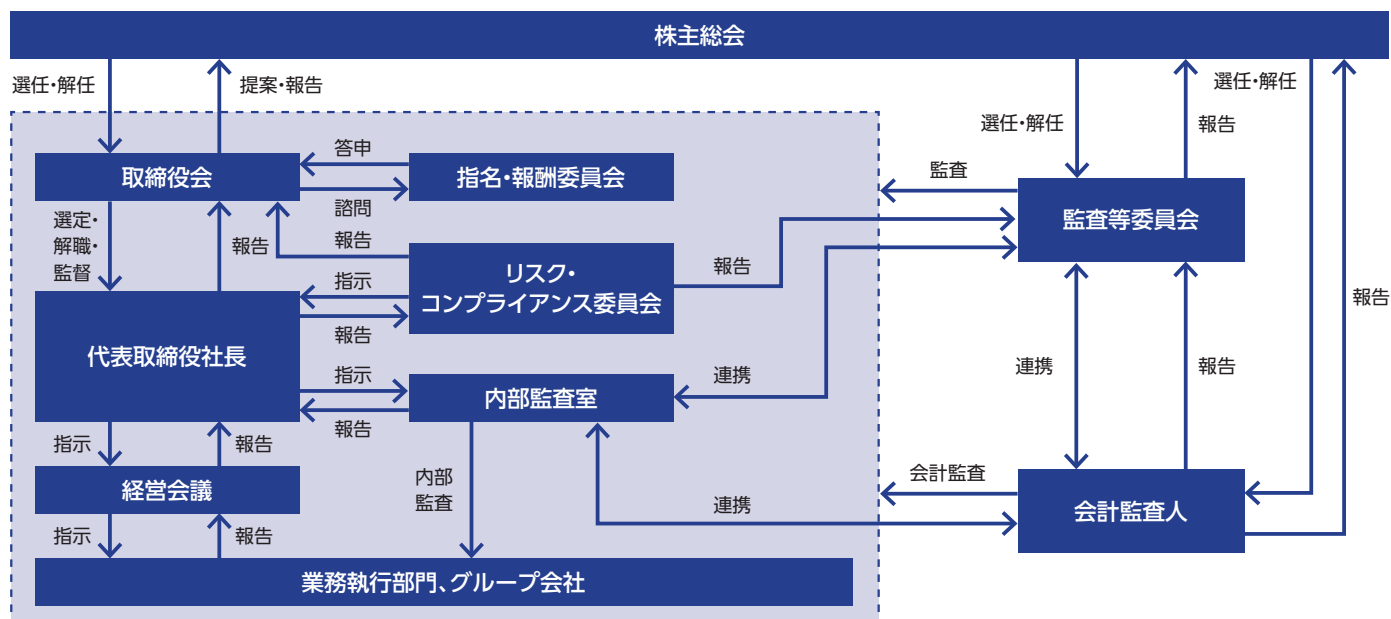
「内部統制システムの整備に関する基本方針」を定め、アルテミラグループにとって最適なシステムを構築するよう努めています。

コーポレート・ガバナンス基本方針

当社は株主をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様との適切な協働により、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的に、コーポレート・ガバナンス基本方針を定めています。

1. 株主の権利・平等性の確保
2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
3. 適切な情報開示と透明性の確保

コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

代表取締役社長をコンプライアンス最高責任者とし、独占禁止法、下請法、環境関連法令、腐敗防止関連法令、輸出管理法その他の法令違反のほか、人権侵害、各種ハラスメントが起きないようにコンプライアンスの遵守徹底を図っています。

1) 行動規範

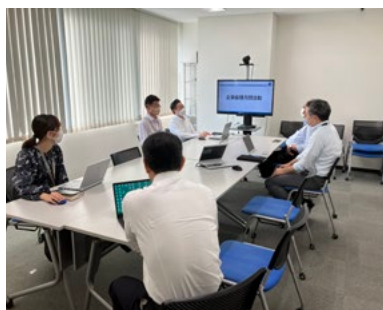
新たなグループとしてスタートしたことから、グループの役員および従業員の行動の指針となる8つの行動規範を定めています。

- ①安心・安全な製品とサービスの提供
- ②法令遵守
- ③公正取引
- ④安全と環境
- ⑤ステークホルダーとのコミュニケーション
- ⑥人権の尊重
- ⑦地域社会との調和
- ⑧CSR調達

2) 企業倫理月間活動

毎年10月を「企業倫理月間」とし、この期間中の活動を通じてコンプライアンスに対する意識向上を図っています。

- ①ハンドブック「知っておきたい行動規範」をグループ従業員全員に配布、班・係・課・部単位で意見交換し、報告書提出
- ②経営職層、管理職層は行動規範遵守に関する誓約書提出
- ③全従業員は腐敗防止、マネーロンダリング、貿易管理に関するコンプライアンスポリシーの宣誓書提出



3) 内部通報窓口

アルテミラグループでは、独占禁止法、下請法、環境関連法令、腐敗防止関連法令、輸出管理法その他の法令違反のほか、人権侵害、各種ハラスメントなどのあらゆるコンプライアンス違反を、早期に把握・是正するため、内部通報窓口を設けています。内部通報の内容、調査に関わる情報は極秘情報として取り扱われ、内部通報をしたことを理由として不利益は発生しません。通報ルートとして社内の窓口と外部の窓口を設置し、通報者にとって通報しやすい体制を構築しています。

通報・相談があった事案は、社内規程に則り、迅速に対応しています。また、再発防止のため、制度整備、関連規程改定などを適宜行っています。

利用促進のため、イントラネットへの情報掲載などを行い、内部通報制度の周知に努めています。



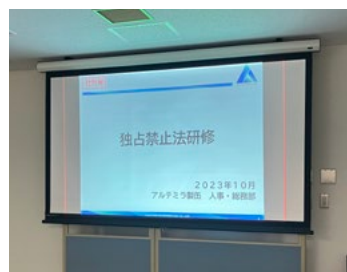
4) コンプライアンス研修等

① 独占禁止法

アルテミラグループは、過去に子会社において公正取引委員会より独占禁止法に違反する行為があったとして処分を受けたことを厳粛かつ真摯に受け止め、二度と同様の事態を発生させることのないよう、社員教育の拡充、監査体制の強化等の再発防止策を講じています。

② 情報セキュリティ

秘密情報の漏えい防止のため、必要な規則を制定し、グループの役員および従業員に対して研修を年に複数回実施しています。



③ コンプライアンス教育

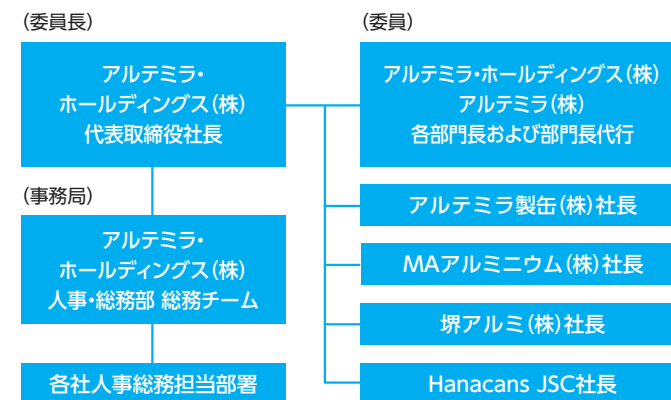
基本的なコンプライアンス知識の習得のため、DVDを活用してグループの役員および従業員に対して、労務管理編、対外取引編、日常業務編、内部統制・リスク管理編、インサイダー取引編について教育を実施しています。

リスクマネジメント

1) リスクマネジメント活動

代表取締役社長を委員長とするリスク・コンプライアンス委員会を計3回実施しています。委員はアルテミラグループの代表取締役社長、財務経理担当の取締役、執行役員、各部門長、グループ会社社長で構成されており、グループ共通で考えられるリスクについて議論し、代表取締役社長指示の下、リスクへの低減策を講じ、早期に改善できるよう努めています。

リスク・コンプライアンス委員会



2) 危機管理体制

アルテミラグループでは、経営または事業活動に重大な影響を与える事態が発生した際には、代表取締役社長を委員長とする危機管理委員会を設置し、関係各部が連携して迅速に対応することができるよう体制を整備しています。

飲料用アルミ缶の 品質保証の取り組み

アルテミラ(株)とアルテミラ製缶(株)は、顧客価値の高い製品・サービスの提供のため、高精度の品質管理と厳格な衛生管理を行っています。
飲料用アルミ缶の提供という社会的役割を担い、安全・安心なアルミ缶を皆様にお届けします。

品質方針および食品安全方針

私たちは、お客様の期待に応える安全・安心な製品・サービスの提供をします

1. お客様の立場に立って、満足度向上を追求します。
2. 法令を遵守します。
3. 製品・サービスの安全性を徹底していきます。

品質保証組織

アルテミラ(株)の品質保証部は、アルテミラ(株)とアルテミラ製缶(株)の品質保証活動を統括し、全社的な戦略に基づく品質方針の制定と実行推進を行っています。

「品質委員会」を設置し、各工場の品質不具合の改善状況の共有を定期的に行い、製品の品質向上に努めています。

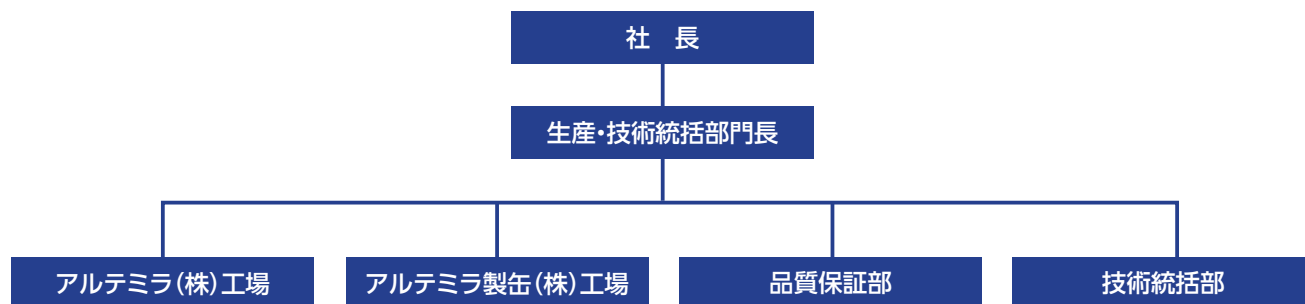
品質リスク診断

品質リスク(コンプライアンス、不具合等)低減を目的に、品質保証部が各工場の運用状況を現地確認し、評価、改善提案を行っています。

守られ度点検

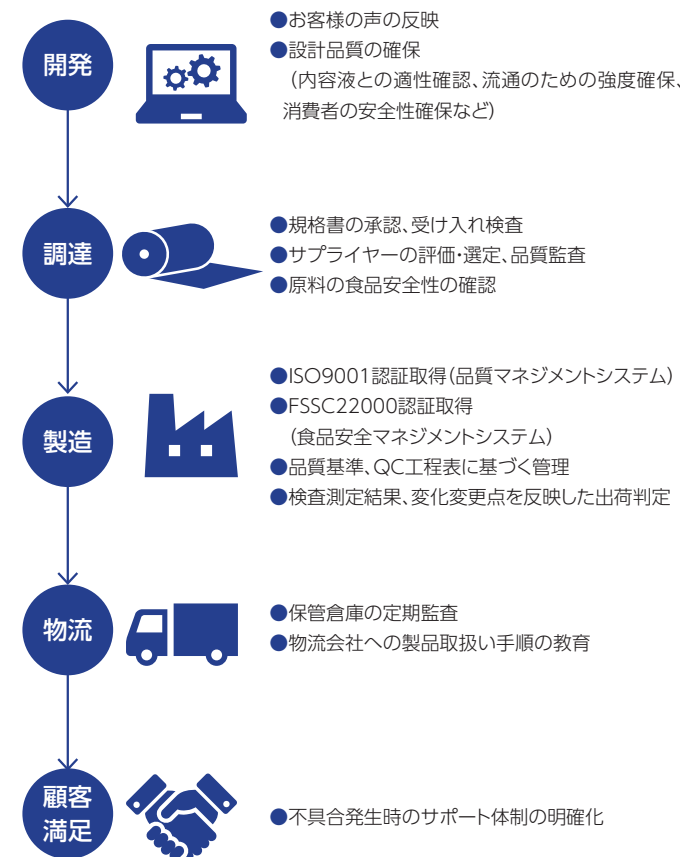
品質不具合に対して定めたルールが守られ維持されているかを各工場にて確認し、ブラッシュアップしています。

品質委員会運営組織



各プロセスにおける品質保証活動

飲料用アルミ缶の企画・開発から原料の調達、製造、物流、お客様への提供に至るすべてのプロセスで、全従業員が一丸となって品質保証活動に取り組んでいます。



MAアルミニウム(株)の 品質保証の取り組み

MAアルミニウム(株)は「信頼」と「安心」という品質方針のもと、
全社で品質の維持・向上のための活動を推進しています。

品質方針～「信頼」と「安心」～

品質マネジメントシステムに磨きをかけ、お客様から信頼され、
安心していただける製品とサービスを提供する

- お客様のニーズを実現するため、営業、設計・開発、生産技術等、あらゆる品質の向上に努め、安心していただける製品とサービスを提供する。
- 法令・規制要求事項への適合はもとより、本品質マネジメントシステムの有効性を向上し、全ての品質保証活動を推進する。

MAアルミニウム(株)では、品質方針として「品質マネジメントシステムに磨きをかけ、お客様から信頼され、安心してご使用いただける製品とサービスを提供する」ことを掲げております。

お客様にご満足いただける製品品質の維持・向上を目指し、お客様からの信頼と安心を継続的に獲得できるよう、品質保証活動の充実に努めています。

品質組織～独立している品質保証部署～

MAアルミニウム(株)では、品質保証部を製造部門から独立させることにより、お客様との取り決めに基づく製品品質を最優先とした客観的な判定体制を構築しています。

また、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムの運用に

より、品質保証部門や製造部門だけでなく、営業、開発、調達、出荷などの各プロセスに関わる部門も、品質を通じた顧客満足度の向上を目指し、積極的に業務を推進しています。



品質保証に関する全社活動 ～全社で品質の維持・向上を推進～

●品質保証体制強化への取り組み

- (1) 品質保証能力範囲の見直しによる適正化
- (2) 検査等におけるITによる統制・システム化
- (3) 品質管理、品質意識向上を目的とした
 - ・各種監査
 - ・品質訓話
 - ・強化月間の設定
 - ・小集団活動の実施

●製品品質維持・向上への取り組み

- (1) クレーム、及び社内工程異常発生の低減、
是正処置実施のモニタリングの実施
- (2) ISO9001に基づく内部監査の実施
- (3) 品質保証体制に対する品質監査の実施
- (4) 品質保証に関連する設備投資の継続実施

堺アルミ(株)の 品質保証の取り組み

堺アルミ(株)はお客様に安全・安心な製品をご提供する為に、各工程で徹底した品質管理を実施しています。

品質方針

お客様に喜ばれる最高の製品とサービスを提供します

1. お客様の要求を的確に把握し、スピーディに対応する。
2. 品質マネジメントシステムを確実に実行して、品質の維持向上を図る。
3. 統計的手法により継続的な改善を行い、全員のレベルアップを図る。

品質保証組織

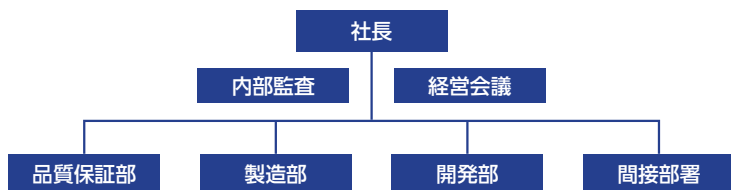
堺アルミ(株)では、品質方針に基づき品質保証活動を行っています。

品質保証部は製造部門や開発部門と独立し、客観的かつ公平な視点で製品・サービスの品質を評価し、問題点を指摘します。

2022年より「品質改善分科会」を設置し、全社一丸となって製品の品質向上に努めています。

品質改善活動の進め方

STPDサイクルとは、「See(見る)」「Think(考える)」「Plan(計画する)」「Do(実行する)」の4つのステップで構成されています。最初に目標を設定するのではなく、現状を把握し分析することから始める点が特徴で、より効果的な計画を立て、実行できるため、業務改善や問題解決に役立つフレームワークを導入しています。



品質保証活動

●品質マネジメントシステム

堺アルミ(株)は、ISO9001認証を取得しており、継続的改善により、高品質な製品を提供するプロセスを管理しています。

●品質監査

過去に発生したクレームや社内不良の再発防止を徹底する為、品質監査を定期的に実施し、対策の遵守状況を確認しています。

●守られ度チェック

抜き打ちで製造現場をチェックし、決められた手順通りの作業、点検を実施しているかどうかを確認しています。

●品質情報の社内共有

品質保証に関する重要項目や傾向管理データ等を共有し、品質保証業務の高度化・効率化を図っています。

●検査データ改ざん防止

コンプライアンス徹底の一環として、検査データの改ざん防止に取り組んでいます。検査・試験機器から結果を自動でデータベースに取り込むことで、入力間違いやデータ改ざんの防止を図ります。



検査結果を自動で取り込む様子

安全衛生の取り組み

アルテミラグループは、「安全の確保に万全を期し、無事故、無災害に努めます」を行動規範のひとつとしています。

アルテミラグループ安全衛生方針

安全と健康を守ることは全てに優先する

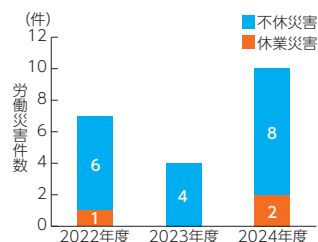
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------|
| ●法の遵守 | 労働安全衛生関連諸法令の遵守 | ●衛生管理 | 心身ともに健康で明るい職場環境の形成 |
| ●安全管理 | 危険に対する感受性向上による労働災害の未然防止 | ●継続的改善 | 自立した安全衛生活動の運営と活性化 |

労働災害の状況

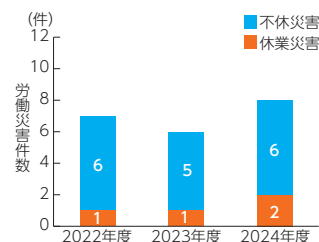
2024年度は、グループで休業災害4件、不休災害14件の労働災害が発生しました。過去3年間の国内製缶、板・箔・押出それぞれの発生状況は、次の通りです。

過去3年間(2022-2024年度)の安全成績(国内製缶/板・箔・押出別)

国内製缶(アルテミラ/アルテミラ製缶)



板・箔・押出(MAアルミニウム/堺アルミ)



安全衛生活動

アルテミラグループは、「One ALTEMIRA」のもとに、グループ各社間での情報共有、VR危険体感機器やDVD教材等の活用も図り、安全に強い職場と人づくりを鋭意目指しています。「ご安全に」を日々の挨拶とし、各社にて全員参加の安全衛生活動を労使一体にて能動的に取り組んでいます。具体的には、各職場における危険の見える化に向けた危険予知(KY)活動、ツールボックスミーティング(TBM)の運用、危険感受性を高めるためヒヤリハットの共有や人のミスを未然に防ぐ取り組みとしての社内研修、危険体感習得につながる指導などの教育訓練にも努めています。

さらに、リスクアセスメント推進により設備の本質安全化を徹底、また、過去災害の振り返りを織り込んだ安全監査等を実施し、実活動に関する管理体制の質の向上を図っています。

毎年7月の全国安全週間、10月の全国労働衛生週間の中では安全大会の開催や従業員による標語・ポスターの入選者表彰を行うなど相互啓発の醸成を図ることに加え、労働災害防止や健康支援のため、近年は、高齢者への配慮や受動喫煙防止等にも力を入れています。



安全交流会



安全部屋での危険体感訓練



技能教育



安全大会



安全ポスター

危険体感訓練

社内外の施設やVR機器を活用した危険体感訓練では、心理面も意識した学習により労働災害の怖さを疑似体験することで危険に対する感受性を高めています。



VR危険体感訓練

交通安全

春と秋の交通安全運動期間を始めとする立ち番の実施により、シートベルトの着用状況、場内制限速度の遵守状況や歩行者の横断時における指差呼称の実施状況のチェック、指導を行っています。



交通立ち番

作業環境測定

各社の事業場には、騒音職場や有機溶剤などを取り扱う工程があります。快適な作業環境を確保して、従業員の安全と健康を維持、改善することを目的とし、年2回の作業環境測定を実施しています。

健康支援

法令に則り、「定期健康診断」、「特殊健康診断」、「ストレスチェック」を行い、職場における熱中症対策の強化にも対応しています。また、メンタルヘルス対策の一環として、社内外に相談窓口を設けています。さらに、受動喫煙防止や禁煙支援、責任ある飲酒に関する活動にも、積極的に取り組んでいます。



腰痛予防セミナー



熱中症対策

エイジフレンドリー

高齢者に配慮し、健康や体力に応じた職場環境、および作業内容の改善に取り組んでいます。



転倒災害防止セミナー(ツーステップテスト)

防災訓練

地震や火災を想定し、迅速に初期消火や救命・避難行動・通報を確実にできるよう、年1回以上訓練を実施しています。



防災訓練



消火訓練

社会貢献活動

アルテミラグループ各社は、よき企業市民として、地元・地域から愛される会社でありつづけるために、スローガンを掲げ、みんなを笑顔にする社会貢献活動を推進しています。

社会貢献活動スローガン

みんなを笑顔に「アルテミラ・スマイル活動」

●アルミ缶のリサイクルで笑顔に ●美しい環境で笑顔に ●ミライを担う人と笑顔に

アルテミラ製缶(株) 富士小山工場

小山町教育委員会と連携し、町内小中学校に備品を寄付しました

アルミ缶回収収益金で、静岡県駿東郡小山町の小中学校に備品の寄付を行っており、2025年は小学校に屋外用テントを寄付いたしました。寄付する学校や備品については小山町と連携して行っており、今年で15回目となります。これからも地域の小中学校の生徒が充実した学校生活が送れるよう備品の寄付を継続してまいります。



小学校の校長先生と
アルテミラ製缶(株)富士小山工場
武藤工場長



寄付した屋外用テント

アルテミラ(株) 彦根工場

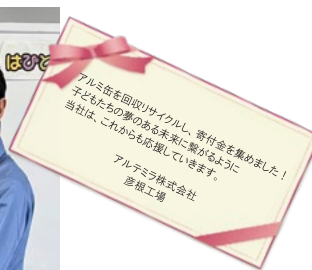
アルミ缶回収チャリティー収益金をはぴとも基金に寄付しました

従業員全員が活動に参加しているアルミ缶回収の収益金を彦根市社会福祉協議会の「子どもの幸せ応援基金(はぴとも基金)」と「のぞみ子ども食堂(プチクラファン)」に寄付しました。

アルミ缶が子供たちの笑顔につながるように、アルテミラ(株)はこれからも応援していきます。



彦根市社会福祉協議会 高橋常務理事 アルテミラ(株)彦根工場 菅原工場長



アルテミラ製缶(株) 岐阜工場

近隣の皆様にもアルミ缶回収に協力いただけるイベントの開催

工場近隣にお住いの皆様にもアルミ缶回収にご協力いただいています。自家用車で持ち込んでいただく「ドライブスルー回収」を毎年開催しており、今年もたくさんのアルミ缶が集まりました。地域の皆様と共に循環型社会を目指しています。



MAアルミニウム(株)

小中学生対象の職場体験学習・製造ライン見学を実施しました

2024年11月、静岡県裾野市立西中学校2年生を対象に、本社・富士製作所で職場体験学習(計2日間)を開催しました。アルミニウムの基礎に関する座学、製品の目視検査や生産設備の操作の体験、丸山社長との懇談等を通じて、仕事を体験してもらいました。

また、別日には裾野市立向田小学校5年生を対象に製造ライン見学も実施し、アルミニウム板等の製造工程を学んでもらいました。見学後のクイズでは多数の児童が挙手をする等、大いに盛り上がりました。

今後も近隣の学校と連携し、キャリア教育を支援していきます。



大型加工機のオペレーティングを体験しました



丸山社長が中学生のみなさんと懇談しました



見学を終えた小学生のみなさんと記念撮影

事業所近隣の環境美化活動(清掃)を実施しました

みんなを笑顔にするための『アルテミラ・スマイル活動』の一環で、MAアルミニウムグループの各事業所において、清掃活動を延べ11回実施しました。中でも、静岡県裾野市中央公園や三島市立公園楽寿園では、他企業やボランティア団体の方々とも協力して清掃活動に取り組み、豊かな自然環境保全に努めました。今後も各地域での清掃活動を通じて、地域社会に貢献していきます。



裾野市中央公園は五竜の滝を中心に整備された日本式庭園です



楽寿園は国の天然記念物および名勝で、前身は小松宮彰仁親王の別邸です

献血活動について

堺アルミ(株)では、事業所内で献血活動を年2回実施しております。

採血された血液はその場で血液搬送バッグに詰められ、大阪府茨木市にある近畿ブロック血液センターへ運搬され、そこで各種血液製剤になります。その後は都道府県赤十字血液センターで保管され、必要な患者様へ輸血されます。今後も社会貢献活動に取り組んでまいります。



堺市内の小中学校向け教材への協賛について

堺アルミ(株)は、2025年度版小学校・中学生のためのお仕事ノート/ブックの堺市版に協賛しました。

この冊子は、キャリア教育の副読本として堺市内の公立全小中学校向けに配布されます。

子どもたちには学ぶことが自分の将来につながっていることを感じ、働くことへの関心を持ってもらえるよう工場見学の受入募集にも取り組んでおります。

[illegible]

Company Profile

会社概要

社 名 アルテミラ・ホールディングス株式会社
(英文表記)ALTEMIRA Holdings Co.,Ltd.

事業内容 グループ会社の経営管理、ならびに付随する業務

資 本 金 1億円

代 表 者 中塚 晃章

社 名 アルテミラ株式会社
(英文表記)ALTEMIRA Co., Ltd.

事業内容 飲料用アルミ缶の製造、
研究開発および販売

資 本 金 3億1,000万円

代 表 者 中塚 晃章

従 業 員 399名(2024年12月時点)

社 名 アルテミラ製缶株式会社
(英文表記)ALTEMIRA Can Co., Ltd.

事業内容 飲料用アルミ缶の製造

資 本 金 80億円

代 表 者 中塚 晃章

従 業 員 931名(2024年12月時点)

拠点

①本社

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
TEL.03-3830-6130 FAX.03-3830-6131

②技術センター

〒323-0811 栃木県小山市犬塚1-30-3
TEL.0285-23-1121 FAX.0285-30-2020

③富士小山オフィス

〒410-1392 静岡県駿東郡小山町菅沼1500
TEL.0550-76-3260 FAX.0550-76-5430

④小山工場

〒323-0811 栃木県小山市犬塚1-30-3
TEL.0285-21-2311 FAX.0285-30-1073

⑤彦根工場

〒529-1151 滋賀県彦根市楡町370
TEL.0749-25-1501 FAX.0749-28-8001

⑥大牟田工場

〒836-0037 福岡県大牟田市岬町1-16
TEL.0944-41-2111 FAX.0944-41-2112

拠点

⑦結城工場

〒307-0016 茨城県結城市新堤仲通り1-1
TEL.0296-33-3811 FAX.0296-33-0339

⑧群馬工場

〒374-0047 群馬県館林市野辺町906-2
TEL.0276-74-8500 FAX.0276-74-7561

⑨富士小山工場

〒410-1392 静岡県駿東郡小山町菅沼1500
TEL.0550-76-3211 FAX.0550-76-5521

⑩岐阜工場

〒505-0006 岐阜県美濃加茂市蜂屋町下蜂屋伊瀬入会16-8
TEL.0574-26-8111 FAX.0574-26-8115

⑪滋賀工場

〒522-0244 滋賀県犬上郡甲良町在士古田681
TEL.0749-38-2001 FAX.0749-38-2276

⑫岡山工場

〒709-0844 岡山県岡山市東区瀬戸町南方150
TEL.086-953-1511 FAX.086-953-2230



社 名 Hanacans Joint Stock Company
事業内容 飲料用アルミ缶の製造、販売
資 本 金 814,906,810,000 Vietnam Dong
代 表 者 真壁 英貴
従 業 員 524名(2024年12月時点)

拠点

●HEADQUATER & BAC NINH PLANT

Hanaka Industrial Park, Dong Nguyen Ward, Bac Ninh Province

●QUANG NAM PLANT

Plot 15, Dien Nam - Dien Ngoc Industrial Park, Dien Ban Dong Ward, Da Nang City

●BA RIA - VUNG TAU PLANT

Plot VIII-5 + VIII-6, My Xuan B1 - Tien Hung Industrial Park, Phu My Ward, Ho Chi Minh City

社 名 MAアルミニウム株式会社
(英文表記)MA Aluminum Corporation
事業内容 アルミニウムおよび同合金展伸材ならびに
その加工品の製造・販売
資 本 金 3億1,000万円
代 表 者 丸山 茂樹
従 業 員 936名(2024年12月時点)

拠点

●本社・富士製作所

〒410-1127 静岡県裾野市平松85
TEL 055-992-1211 FAX 055-993-1033

●東京本社

〒105-8546 東京都港区芝2-3-3 JRE芝二丁目大門ビル
TEL 03-3769-0111 FAX 03-3769-0180

●名古屋営業所

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2丁目4番3号
錦パークビル
TEL 052-209-5680 FAX 052-209-5683

社 名 堺アルミ株式会社
(英文表記)Sakai aluminium Corporation
事業内容 アルミニウム板製品、アルミニウム箔製品、
アルミニウム鋳塊の開発、設計、製造、販売
資 本 金 1億円
代 表 者 細井 隆広
従 業 員 294名(2024年12月時点)

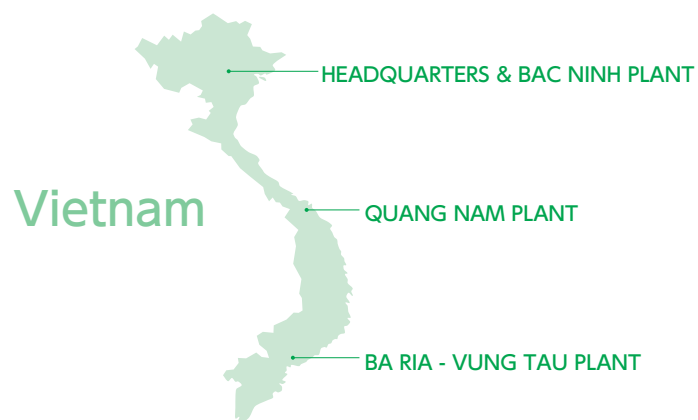
拠点

●本社・堺工場

〒590-8576 大阪府堺市堺区海山町6丁224番地
TEL.072-225-2111

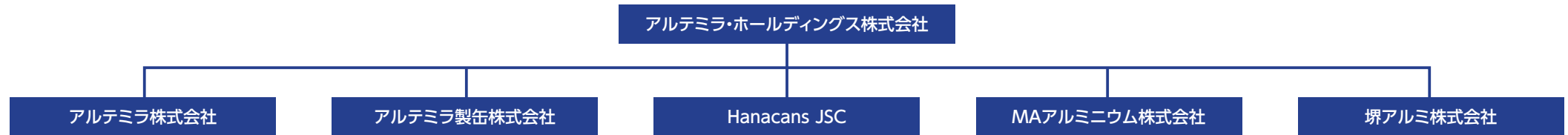
●東京オフィス

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町8-6
H1O日本橋小舟町6階
TEL.03-5843-6055

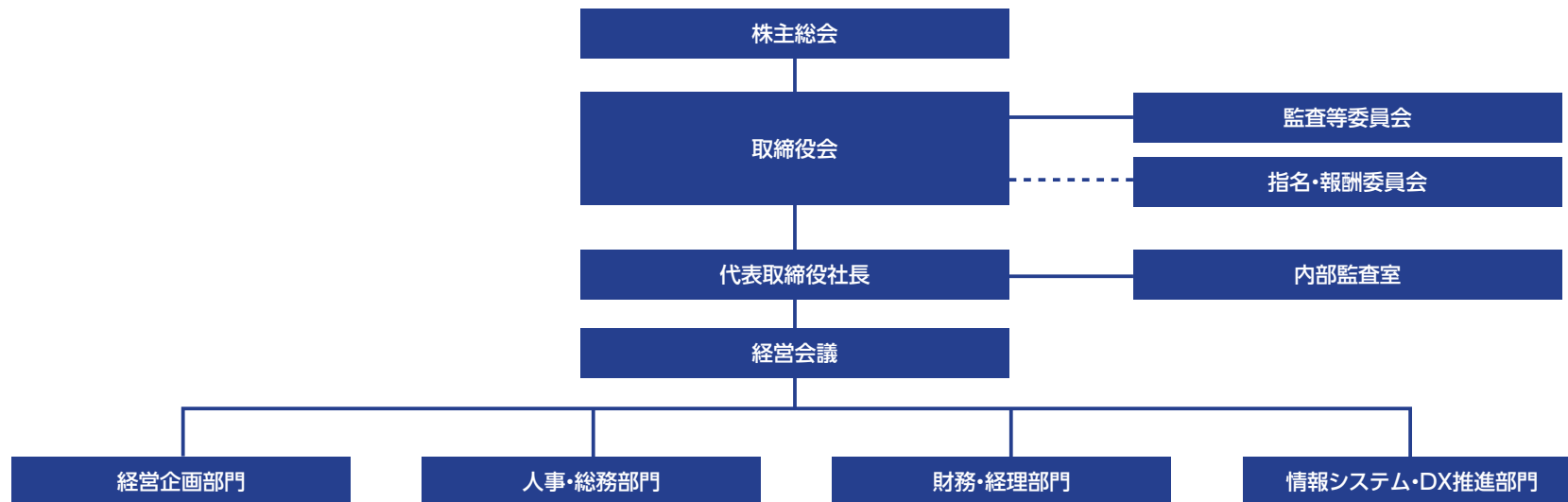


Organization Chart 組織図

アルテミラグループ

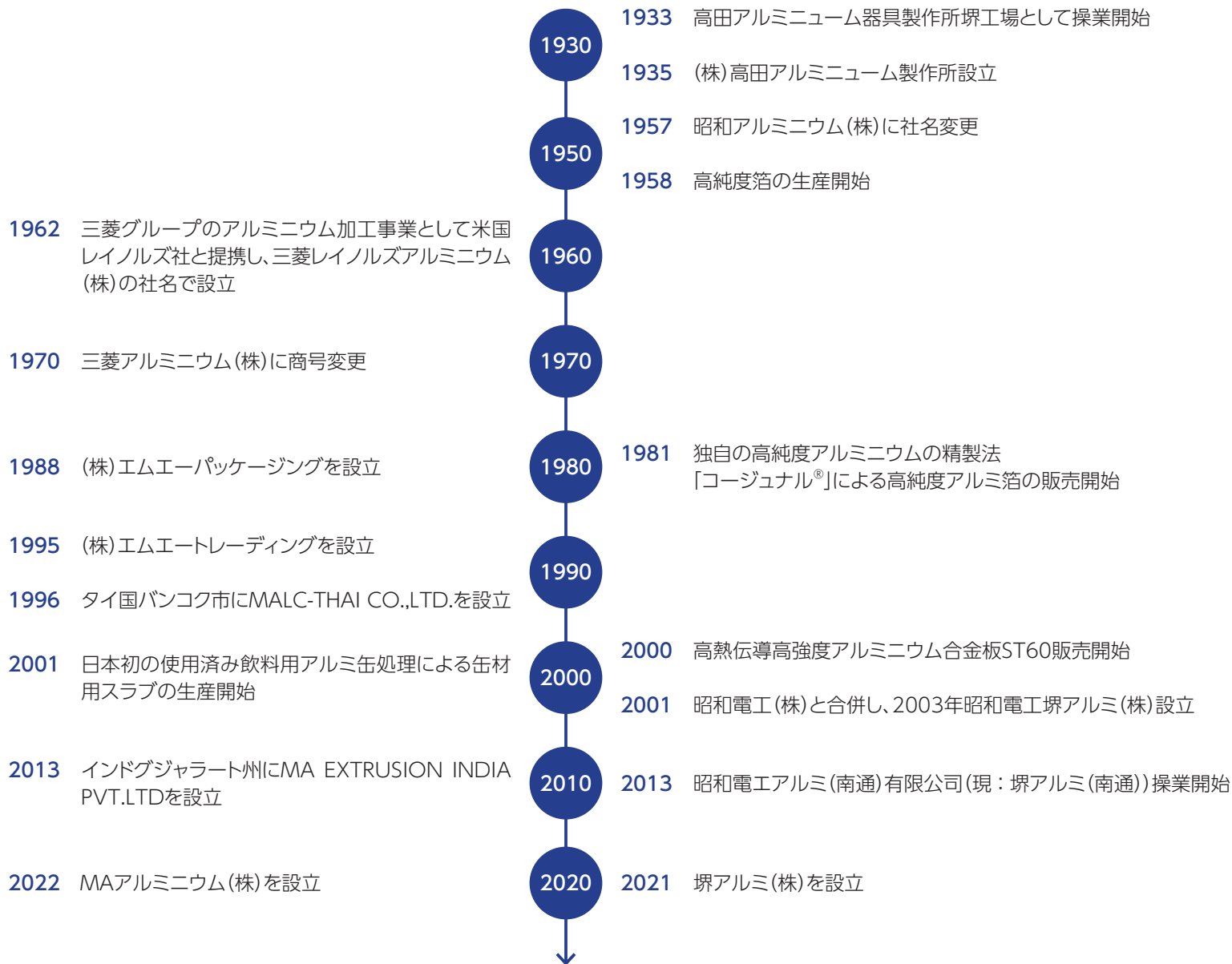


アルテミラ・ホールディングス組織図



History沿革





2025 アルテミラ・ホールディングスに経営管理機能を集約